

G20 バリ・サミットにおけるグローバル・インフラ投資パートナーシップに関する
サイドイベント
岸田総理発言内容

このイベントの開催を歓迎します。

インフラは、国の発展の基盤です。「グローバル・インフラ投資パートナーシップ」が進める質の高いインフラ投資は、インドネシアが掲げるG20のテーマである「共に回復し、より強く回復する」を実現する上でも不可欠です。

我が国は、今後5年間で、650億ドル以上のインフラ支援と民間資金の動員の実現を目指しています。

我が国が進める質の高いインフラ投資の典型例が、インドネシアのパティンバン港開発計画です。円借款による港湾建設と日系企業による自動車ターミナルの運営を通じて、既存港の逼迫状況を改善し、投資環境の改善を後押ししています。

我が国の支援は、先進技術の移転と人づくりを行います。インドでのメトロの建設では、インドの皆さん自身が、我が国の支援を通じ、安全で的確な運行や維持管理ができる組織を作り上げました。

クリーンなインフラの整備は、気候変動対策にもなります。ケニアでは、その国内総発電容量の約7分の1にあたる地熱発電機の建設や改修を支援しています。

さらに、1.5度目標に向けた取組みを支援することとなる、インドネシアとの「公正なエネルギー移行のためのパートナーシップ」の立ち上げを歓迎します。我が国は、米国とともに共同リード国としてこのパートナーシップを引き続きリードし、民間部門の更なる関与も得て、インドネシアの現実的かつ野心的な脱炭素移行を加速させます。

デジタル分野では、豪州は、太平洋島嶼国6か国をカバーする情報通信企業の発展を支える取組をしており、我が国は米国とともにこれを支援する予定です。

インフラの整備とそのための開発金融は、「質の高いインフラ投資に関するG20原則」に沿って国際ルールやスタンダードを遵守した透明で公正な形で行われることが重要です。

我が国は、来年のG7日本議長下でも、質の高いインフラ投資を更に促進し、パートナーの国々と連携して、各国の自立的な成長を後押ししていく決意です。